

(様式1)

2026年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 051	提案機関名 神奈川県しらす船曳網漁業連絡協議会
<b>要望問題名</b> 禁漁期間中のしらすと稚鮎の混獲状況と、カタクチイワシの産卵期の変化について	
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 日頃よりイワシ・しらすの資源研究や漁況予測等でお世話になってます。 当協議会は、しらす船曳網を営む県下の39経営体、50名の漁業者で構成される組織です。当協議会会員が生産する高鮮度・品質の「湘南しらす」は、神奈川県「かながわブランド」「かながわ名産100選」にも認定されております。また、近年当協議会には、今後のしらす船曳網漁・湘南しらすブランドを担う20-30代の若手後継者が8名新規加入しております。 10年前のように、しらすが安定的に獲れている時は良かったのですが、最近7年間は黒潮の大蛇行等による水温上昇等の環境変化により不漁の年が多く、当協議会会員の経営を圧迫しております。特に加工・直売に係る雇用者や、機器等の減価償却を抱える我々にとっては厳しい状況が続いており、従業員を雇わず一人で無理をして船曳網操業する会員もおります。 昨年も春から夏にかけては、地区によって若干の漁があったものの、秋から冬にかけては全域で不漁でした。しかし、禁漁期である年明け1月には、例年しらすの良い魚探反応（低周波に映らず高周波に映る、しらすの魚探反応）が各浜地先に多く見られます。 思うに、稚鮎の混獲を防ぐため70年以上前に設定された1月からの禁漁期ですが近年は海水温上昇や海流の変化により、イワシ類や稚アユの成長・遡上時期にも時季的に遅延するような変化が生じているのではないかと推測し、まずは現状を把握したいと考えております。 水産技術センターでは毎年1～3月の禁漁期間中にしらす類の資源量調査を実施していますので、これまでの「禁漁期間中のしらすと稚鮎の混獲状況と、カタクチイワシの産卵期の変化」について、しらす漁業者研修会（3月）で説明して下さい。 県のブランド品「湘南しらす」の安定生産と、担い手対策の面からも、ご協力よろしくをお願いいたします。	
<b>解決希望年限</b>	① 1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ② 2～3年以内    ③ 4～5年以内    ④ 5～10年以内
<b>対応を希望する研究機関名</b>	① 農業技術センター    ② 畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③ 水産技術センター    自然環境保全センター
<b>備考</b>	

<b>回答機関名</b>	水産技術センター	<b>担当部所</b>	企画研究部
<b>対応区分</b>	① 実施 <input checked="" type="checkbox"/> ② 実施中    ③ 継続検討    ④ 実施済    ⑤ 調査指導対応    ⑥ 現地対応    ⑦ 実施不可		
<b>試験研究課題名</b>	(①、②、④の場合) 200海里内漁場資源研究		
<b>対応の内容等</b>	当センターにおいて、毎年、禁漁期間中のしらす調査を実施し、しらす3種類と稚鮎の混入状況を測定しています。また、この調査とは別にカタクチイワシの卵を含む卵稚仔調査も行っていますので、過去の調査結果や水研機構の資源評価などから「禁漁期間中のしらすと稚鮎の混獲状況と、カタクチイワシの産卵期の変化」について、しらす漁業者研究会で説明いたします。		

担い手対策については、中小企業診断士による経営力向上のための研修を実施するなど対策を進めてまいります。

**解決予定年限**

① 1年以内    ② 2～3年以内    ③ 4～5年以内    ④ 5～10年以内

**備 考**